

教育委員会だより

令和8年9月25日号 多治見市教育委員会 教育総務課

＜めざす子ども像＞
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

探求の面白さを… ～第70回多治見市科学作品展～

今年も力作ぞろいの多治見市科学作品展が8月29日と30日、パロー文化ホールで開催されました。来場者数は896名。その内訳は、作品展に出品することができた児童生徒やそのご家族が中心だとは思いますが、子どもたちの頑張りを毎年楽しみに見に来てくださる方もおみえでした。私も参観させていただきましたが、自分の作品を祖父母に自慢する1年生の子の姿が印象的でした。また「来年は金賞とるぞ」なんて話をしているやる気に満ちた子もいました。友達の作品や永年追究を重ねてきた作品を見て「凄いね」と話す子もいました。作品自体を見ることも楽しいことですが、そんな子どもたちの様子を見るのもとても楽しい時間です。作品には出品者の思いと支えた家族の思い、友だちの思いなんかも入っている「とても大切な作品」なのだと改めて実感しました。

さて、最近心配になるのが、夏休みを利用して「科学作品」に取り組む児童生徒の数が減少していることです。今年度の出品数は小学校162点・中学校13点の合計175点、取り組み点数は小学校333点・中学校27点の合計360点でした。昨年度と比べて、わずかですが増加という結果（出品数+3、取り組み点数+15）に、ほんの少しですが胸をなでおろしています。

次期学習指導要領の検討において、子どもたちが自ら問いを見出し「探求」の過程を通して学びを深めていくことがこれまで以上に重視されようとしています。科学作品は、その最たるものだと感じます。今年の作品も「子どもらしい発想」「身近な興味あること」「もっと知りたいこと」「更に追究したいこと」を起点にして研究が始まっています。そして、自らの工夫で実験・観察をすすめ、自分なりの結論を導き、そこから生まれた新たな疑問に挑戦する学びが展開されています。科学作品に取り組んだ子は、この「探求」の面白さを感じられていると思います。時代の要請はまさにそこにあります。

これまで70回を積み重ねた多治見市科学作品展が、今後も、より多くの児童生徒が取り組み、集う場として続いていくことを願ってやみません。



自ら伸び、自ら未来を拓く

～外国籍等児童生徒夏休み学習会&多言語進路説明会～

多治見市の今年の夏休みは40日間。その半分以上、22日間も「外国籍等児童生徒夏休み学習会」が行われました。お盆休みや土日を除きほぼ毎日の開催です。駅北庁舎だけでなく、市之倉・滝呂・北栄の各小学校でも行われ、50名もの児童生徒が日本語の学びを進めました。外国籍の子が多くいる中で学びはみなに安心感を与え、笑顔で学びに向かうことができています。加えて「夏休みの宿題」を進めることもでき一石二鳥です。子どもたちは、日本で生きていくために「自ら伸びる」ことを求めてこの学習会に参加してきているのだと感じます。

また、既に毎年恒例となってきましたが、8月21日（金）に多言語進路説明会を駅北庁舎にて開催しました。今年も6言語での説明会。聞きに来た児童生徒と保護者は40名。学校関係者9名とこの場を卒業していった高校生7名の参加を含め、席が足りずに急遽追加するといった大盛況ぶりでした。

いつ参加しても思うのですが、日本語での説明の後、5言語での通訳の声が飛び交うホールは圧巻です。そして、最後に高校生が「あきらめずに努力すれば希望の高校に通うことができている。自分を信じて…」といった語りをすると涙ぐむ参加者も。最後は会場全体が大きな拍手に包まれ、温かな雰囲気となりました。

様々な思いをもって日本に来た彼らですが、自らの力で未来を切り拓こうと説明会に参加してきています。卒業生たちもそうして未来を切り拓いて今があります。多治見では、そんな未来に挑む子どもたちを誰一人取り残しません！



酒を造る！ ～文化財保護センター企画展～

現在開催中の文化財保護センター企画展「酒を造る」の中で、8月22日に子どもたちを対象としたワークショップを開催し、大人を含め40名の参加がありました。「酒と子ども」です。結びつけるのは難しく、講師の先生も「初めての経験」とのこと。そんな中、うるち米と酒米の食べ比べやお酒の「匂い」の嗅ぎ分けなど、楽しい体験が子どもたちの瞳を輝かせました。現在までの来場者数は310名。12月まで続く企画展、休日開催(11/3, 12/6)もあります。ぜひ、足をお運びください！！

